

# 同窓会報

発行所  
愛知県立国府高等学校  
同窓会  
豊川市国府町下坊入10  
編集発行人  
林 矩 道  
印刷所  
大 林 印 刷 (株)

## 創立六十周年記念事業報告特集

### 会長就任挨拶

高三回 林 矩 道



窓会長の器にあらずと、ひたすらご辞退申し上げたのですが、副会長を始め役員の方々が皆経験豊富な有能な方々で一致協力するから、たつとのお話してお引受を覚悟した次第です。歪んだ壺も観ようで使い道もあるのかとひたすら恐縮のいたりです。

母校創立六十周年記念行事を機に、近藤時代同窓会長が引退を決意され、その後任に総会のご推挙を受け私が同窓会長に就任することになりました。誠に光栄であり、その責任の重さを痛感致しております。

同窓会の目的は、会員相互の親睦を計り旧交を温め、かつ母校発展の為に貢献するということにあると存じます。この目的達成に私ごとがその責を果し得るかどうかが甚だ疑問ですが、会員の皆様と役員の方々のご指導ご援助に就いてご協力ながら会務に精励する覚悟であります。

幸いな事に母校の同窓会は女学校時代からの六十年に亘る長い歴史と伝統があります。この歴史と伝統の上に乗って会の運営を計り、その上にな

お新しい歴史を一步でも築く事が出来ればと念じております。

近藤前会長は昭和三十三年に就任以来、実に二十二年間に亘りその職務を全うされ、数多くの立派な業績をのこされ、国府同窓会の歴史を築いてこられました。即ち新校舎の建設、同窓会館の再建、甲子園出場の際の大応援、六十周年記念事業などの大仕事を、まさに同窓会育での母であります。

このような名会長の直後でもあり、又私が男性として始めての会長であるという意義も十分にふまえて、母校同窓会発展のため献身努力を致す覚悟であります。先輩、同輩、後輩諸氏の御指導、御協力の程を伏してお願い申し上げます。次第です。

## 母校創立六十周年記念事業を終えて

実行委員長 近藤 時代

昭和五十三年十一月五日に

母校創立六十周年記念式典が挙行されました。多数の来賓や恩師をお迎えして、PTA、同窓生及び在校生一同が集い、さしもの会場も溢れるばかりの盛況でした。式は荘厳、静粛に行なわれ、生徒さん達の態度が立派であったことは、参会者一同異口同音に賛辞を惜しみませんでした。アトラクションのN響の音楽会は、高校十四回卒の浜道晃氏のお骨折りで開催することが出来ました。さすがN響のメンバーは素晴らしいもので一同音楽の神髄に酔うことが出来ました。

名簿も新しく作られました。これがまた大変な仕事で、委員の方々のひとかたならぬお骨折りの賜ものです。今後住所変更の時は必ず変更届けを学校内同窓会宛に出していただくようにこの機会を借りて心からお願ひしておきます。

名簿と記念誌の表紙は高校七回卒の岩原良仁氏(白土会員・名古屋造形短大教授)のデザインによるものです。尚当日の記念品のブロンズ像は、高校六回卒の清水良治氏の作品で現在新制作協会会員として活躍されています。このように同窓の方々が各方

面に活躍されていることは本当に心強く思われます。こうして六十周年記念事業も立派に行うことの出来たことは同窓生の温かき協力と母校の先生方のお骨折りの賜ものと厚く御礼申し上げます。私ことこれを機会に二十二年間にわたる同窓会長の職を退かせていただきます。いたらない者でしたが在職中のご協力ご援助を心から感謝いたしております。有難うございました。次期会長は高校三回卒の林矩道氏がお引受けくださいました。とても立派な方で同窓会を新しく建て直してくださること信じ心強く思っています。今後共母校のこと、同窓会のことをよろしくお願ひ致しましてペンをおきます。





五十四年度総会報告

○議事

- 一、五十三年度経過報告
- 二、同決算報告
- 三、購売報告
- 四、会計監査報告
- 五、五十四年度行事計画
- 六、同予算案
- 七、五十四年度役員選出

会長 林 矩道 高3  
 同副 石黒チハル 高2

〃 山本 和明 高6

会計 近藤 菊枝 女26

長島 幸子 女27

監査 伏見たま子 女26

峯田 保宏 高6

購売部長 渡辺 治子 高2

書記 平田 邦夫 高10

影山 秀子 高25

八、その他

○ 総会の持ち方について  
 専門委員会を設け検討すること。

○ 前会長近藤時代氏に感謝状を贈呈すること。

五十四年度の同窓会総会は恒例の四月第二日曜日の八日十時から母校、光風会館で行われ、永年母校同窓会発展に御尽力いただいた前会長近藤時代氏の労をねぎらい、新会長林矩道氏の抱負を伺い、更に三月末日で勇退された平岩鉤前校長、竹内千司新校長と共に懇親会を盛大に挙行了した。

ご挨拶

学校長 竹内千司



54年4月1日付で着任しました。歴史と伝統を持つ、本校が益々その光輝を増すように最善の努力を致す覚悟でございます。

日頃、同窓会の諸兄弟には本校発展の為、多大のご尽力をいただき誠に有難うございます。厚く御礼を申し上げます。昨年は創立六十周年の事業が催され、それに伴って、県当局、同窓会のご好意により、施設、設備の充実を見たのでありますが、まだ改善を要する施設、設備や、更新を要する備品等は多々あるわけで、これら、教育環境の整備をはかって参る所存でございます。PTA・同窓会の精神的なバックアップを得て、所期の目的が達成出来まことに

をお願いいたします。

さて、私達校長会の生徒指導部会で最近話題となつてゐることを少し書いてみたいと思ひます。曰く、「学校の落ちこぼれ」となつても、「社会での落ちこぼれ」にはしない教育をしよう、ということ。学習面での落ちこぼれだけならば、実社会に出て働けば、それでよろしいが、「心構え」というか、「心根」というか、「こころ」に係わる問題としての「落ちこぼれ」は、最近、とみに憂慮すべきものがあるわけで、これらは実社会での「落ちこぼれ」につながるケースが多いために我々教育に携わる者にとつては、十分に配慮しなければならぬ。十分の配慮しなければならぬ。これからの教育は十数年前とは異つた教育、即ち学校、家庭、社会の三者が密接な連けいを取りながら、子共の教育をしなければならぬことを識者に理解していただくなくてはならないと思ひます。

また、現代っ子は、価値観の多様化の中で育ち、学校の教育の中にも、指導上の「あまき」や「あまえ」があり、正邪善悪理非曲直に対する認識に欠ける面が多々あるわけだ、このことも、「こころ」に係わる重要な部分として、父親主義の導入とともに、しかと教示することが大切かと思ふ次第であります。

退任ご挨拶

前校長 平岩 鈞

父兄から頂戴してありますが、私は、このことは、得難い良風美俗と理解しています。狭い島国の中で、洋々たる気宇を以て生活し得ることは、將來必ずや日本のリーダー、東洋のリーダーが育つて行くと思ひます。これは、勉強をすらしめない、させる、させないの問題とは次元が異なるものであることを付け加えて置きます。

同窓会の皆様には益々ご健勝のことと存じます。去る三月末に四十年近い公立学校の教職を退きました。最後の年余りが過ぎました。最後の締めくくりとしての国府高校在勤五ヶ年は私にとりましてはまことに意義深い貴重なものであり、その間、同窓会の皆様から賜りました格別なご支援ご厚情の程、今更ながら身にしみても有難くもつて厚くお礼申し上げます。思い出は尽きませんが、やはり創立六十周年の記念式典、記念事業に巡り会えた感激は一入深いものがあります。殊に六十年の歴史と伝統を集大成した校誌が記念発刊されたことはご同慶の至りであり、明治、大正、昭和三代にわたる激動期に幾多の試練を克服して着実な発展が遂げられた数々の業績や、悲喜こもごもの人間模様、不屈不撓の国府魂が偲ばれて、私も、折りに触れてこれをひもとき、皆様のご恩を思い起すすがにしたいと思つております。記念庭園も立派に出来ました。瓢箪池の復活は女学校時代の面影を少しでも今にという、ささやかな配慮のつもりです。玉川初代校長ゆかりの松や句碑、多くの記念樹すべてに、皆様から寄せられた母校愛の

深さに感激いたしました。また、野球部の甲子園出場も忘れることができません。バス二百二十余台を連ねた大声援や、同窓会、PTA、地域社会挙げての物心両面にわたる絶大なご高配には全く頭が下がりました。人間のエネルギーの爆発的な燃焼に驚嘆と感動の極まりを覚ええました。これが一つの契機となり、他の部活動はもとより、進学の就職にも一段の進展がみられ学校全体が盛りあがったのも事実だと思ひます。

私は在職中、卒業アルバム等にはいつも、「和」と書きました。人と人、人間と人間の調和、お互いの思いやり、協力の大切さを痛感した所以のものです。四月以来、岡崎女子短期大学で第二の人生を始めましたが、現在と過去との対話としての歴史を心の糧として、残り少ない余生ながら教育の道一筋に歩み続けたものと存じております。

申し遅れましたが、同窓会では、会長さんご替わりになり新たな躍進が期待される今日、近藤前会長さん始め皆様方の温かい多大なご支援に對しまして、あらためて深甚なる謝意を表しますとともに、同窓会の今後一層のご発展を心から祈念して退任のご挨拶といたします。

有難うございました。



# 創立60周年記念事業報告

## 創立60周年記念式典

### 成功裡に無事終了

昨年11月5日(当初3日)母校創立60周年の記念式典が盛大に挙行された。その日は空あくまで澄み、母校の還暦を祝うのにふさわしい絶好の菊日和であった。もうあれから一年も経つのかと、改めて歳月の過ぎ去る早さに驚く。その前年、52年の3月同窓会の役員会で提案され、同年4月の総会で万場一致で可決され、早急に実行委員会が結成された。学校・PTA・同窓会の三者、総数約四百名にも及ぶ組織で、精力的な活動が開始された。とはいってもほんとうにうまく出来るかどうか、他校に負けることなく形式・内容ともに優れたものになるかどうか、多くの不安をかかえていた。

だがどうだろう、その日は雲一つない素晴らしい秋日和で60年の伝統を飾るにふさわしい厳粛かつ盛大な記念式典で大成功を収めることができた。これも同窓会諸子の並々ならぬご尽力とご支援の賜ものと深く感謝する次第である。記念式典は三部よりなり、以下それぞれを簡略にまとめて報告します。

#### 一、記念式典



出席者は三百六十四名。その内訳は来賓95名、旧職員82名、PTA52名、同窓会135名、10時開式というのに、午前8時頃には早くも三々五々、先輩の和服姿の女性が集まり、華やいだ雰囲気を感じさせる。国道一号线からも、名鉄電車からも望まれる「創立60周年記念・愛知県立国府高等学校」の看板が一際目立つ。当日は全ての飾りつけを専門の業者に委託したのだが、テーマカラーはグリーンに統一されていた。遠くは北海道、東京、或いは関西からと全国各地の遠隔地から多くの恩師や同窓生が晴れやかな顔で集まる。受付の八つのテントはてんやわんやで、予期していたこととはいえ、馴れぬ仕事で右往左往している。受付、誘導

係の生徒は澄ましたもので、にこやかな笑顔で「お早うございます。控室はこちらでございます。ご案内します。さあ、どうぞこちらへ」などと来賓や旧職員や同窓生、PTAの来客を見事にさばっている。現代っ子はダメだ、何もやれないなどと現代高校生への批判は厳しいが、どうしてどうして、その案内は堂に入っただけで感心させられた。後日談でもさすが国府高校生だと好評しきりであった。

式典は定刻通り午前10時、山本和明(高6回・県議)式典委員長の開会宣言に始まり、平岩学校長の式辞、近藤時代実行委員長挨拶、歴代校長、永年勤続職員への感謝状贈呈と続き、表彰者代表謝辞は歴代校長代表の石田雄一先生が抱け、「と英語で結ばれたのは印象的であった。続いて来賓祝辞では県知事(代理)県教育委員会、地元豊川市長の山本芳雄氏が登壇された。生徒代表挨拶は生徒会長の北沢邦俊君が行い、最後に校歌斉唱、この間一時間二十分、随所に60年の伝統の輝きを見せ、いとも厳粛、かつ盛大なメイン・イベントの式典が展開された。豪華な飾りつけ、厳粛な雰囲気、二千名に及ぶ式典参加者は終生忘れ得ぬ深い感動に包まれた。

二、この後 式典会場を舞台として記念音楽会が持たれ、本校第14回(昭和37年卒業、東京芸大卒)浜道晃氏を中心とする8人のN響による第1部第2部の音楽会が開かれた。荒城の月、九十九里ヶ浜、からたちの花など昔懐かしい日本の代表的歌曲が続々と演奏され、母校創立60周年を飾るにふさわしい格調高い音楽会であったと多くの感想をいだいた。とりわけ浜道晃氏の母校のためという様々なご尽力には、改めて厚く御礼を申し上げます。テレビ、ラジオ等から流れる俗悪な歌が若者の心を蝕む昨今、この種の洗練された、しかも日本人の心を伝える歌曲の演奏はなかなか聴けないだけに、聴衆は深い感銘に浸って大成功であった。

三、記念音楽会第二部と並行して武道場(旧講堂)で、来賓を中心として記念祝宴が行われた。県下各方面からの来賓と歴代校長以下恩師の先生方約二百五十名。PTA会長高木郁夫氏の挨拶、豊川市会議長田中泰雄氏の祝辞、続いて元学校長、恩師が続々とマイクの前に立ち、この佳き日を祝うことは、昔懐かしい思い出話等を披露され、予定時間を大巾に延長する盛会であった。

ほぼ同時刻に記念音楽会も終了、生徒も殆んど帰ったあとで武道場では引きつづいて普段見る武道場は長年の疲れを見せてあちこちと破損も目立ち、薄汚れているが、今日ばかりはホテルのパーティ会場ではないかと見まがうばかりに豪華に飾り付けられ、恩師、同窓生、PTA、現職員三百五十名に及ぶ大パーティーであった。第一部はお客様中心であったが、今度は内輪だけの、しかも心から母校の発展を祝う和気あいあいの祝宴である。卒業生の桜井通子、山脇肇、栗田昌之三氏の司会で近藤実行委員長、平岩学校長の挨拶から始まり、テーブル・スピーチになると、恩師の先生方、卒業生が続々とマイクを握り、想い出話や即興の芸を披露され、嘆め息や笑い声が絶えることなく、一方では今日の晴れの行事がこれといった遅滞もなく全て成功裏に進んだことを互いに喜び合い、歓談は尽きるどころを

知らない程であった。最後に母校々歌を全員で歌うことになり、ブラスバンドの演奏に合わせ女学校々歌、現在の校歌と出席者全員の大合唱で終了した。この日母校創立60周年を祝って北海道からも東京からも、大阪からも馳せ参じた旧職員の恩師、同窓生、互いに再会を約して国府高校の発展を祈って万歳三唱、何時までも名残りを惜しんで三々五々と別れを告げた。

記念祝宴第二部が行われた。

記念行事は学校、PTA、同窓会の三者が一体となつて一年有余の努力が実を結び、大成功を収めたのであった。この数年やはり60年とか70年と伝統を誇る各校が同じように記念行事を行って、それ等のいくつかの例を参考に、綿密に計画された母校の記念事業は、どこからみても他校に劣ることない堂々とした内容であった。この陰で学校関係者、同窓生の並々ならぬご尽力に心から御礼を申し上げ、この報告を終える。

その他、この創立を記念する事業としては、当日二教室分を使って、記念誌編算に用いた多くの資料をパネルにした表にしたりして一般に公開して好評を博した。なお、記念誌、名簿の刊行や記念造園事業も行い、創立記念に実のある花を添えた。

その他、この創立を記念する事業としては、当日二教室分を使って、記念誌編算に用いた多くの資料をパネルにした表にしたりして一般に公開して好評を博した。なお、記念誌、名簿の刊行や記念造園事業も行い、創立記念に実のある花を添えた。

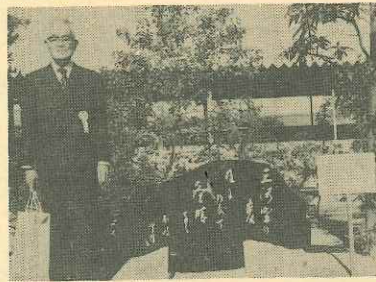
こうして母校創立60周年の記念行事は学校、PTA、同窓会の三者が一体となつて一年有余の努力が実を結び、大成功を収めたのであった。この数年やはり60年とか70年と伝統を誇る各校が同じように記念行事を行って、それ等のいくつかの例を参考に、綿密に計画された母校の記念事業は、どこからみても他校に劣ることない堂々とした内容であった。この陰で学校関係者、同窓生の並々ならぬご尽力に心から御礼を申し上げ、この報告を終える。

知らない程であった。最後に母校々歌を全員で歌うことになり、ブラスバンドの演奏に合わせ女学校々歌、現在の校歌と出席者全員の大合唱で終了した。この日母校創立60周年を祝って北海道からも東京からも、大阪からも馳せ参じた旧職員の恩師、同窓生、互いに再会を約して国府高校の発展を祈って万歳三唱、何時までも名残りを惜しんで三々五々と別れを告げた。

(文責 辻村)



玉川先生句碑建立由来の記



丸山千久子

社会の方々とも親睦が厚く、ご交際が広かったのですが、突然の先生のご昇天に数々の思い出を残され四人のお子様と悲しく水戸のお国へお帰りになりました。

国府高女初代校長として立派に牢固たる基礎を築かれた玉川斌郎先生が、現職にて御他界なられてから早や五〇年が経とうとしています。

玉川先生の奥様が現在九十二才のご高齢にてお元気に水戸市にお住いになられ、昨年の六十周年記念式典を心よりお喜びになり、「誠に心ばかりのお祝にてはづかしくございますが、お受け取り下さいませ……」とご高齢とは思ってもよぬ達筆なお葉書をいただき、同時に金一封を学校の方へお送り下さいました。国府高校のことについていつまでもお忘れにならない奥様のお気持ちを、皆さんと共に感激いたしました。

以来五十年の歳月は流れましたが、校長としてのご経験はこの国府高女のみで、なつかしく思い出されるのも当然のことでございます。この尊いご厚志を卒業生の方々とは別に長く記念に残したいと思ひ、皆様とご相談の結果句碑をとのことにいたしました。先生の沢山ありますご遺稿の中から一句選んで石に合せて書いていただくことになりましたが、できれば先生を知っておられる職員とか、卒業生が望ましいとのご意見もあり、それには俳句の大家太田鴻村先生が玉川先生もご存知だし、奥様も卒業生ですのでお忙しいとは思ひましたが、急なことで期日もせまっていますので無理にお願い致しました訳でございます。でも、ご円満なお心の先生は心よくお引受け下さいまして、ほっとしてほんとうにうれしくございました。

先生には色々ご足労をおかけ致しまして、有りがたく厚くお礼申し上げます。出来上りました時が式典前日にて、記念誌にのせることができず誠に残念でございます。同窓会館の西側に次の句が刻まれました。

三河野の 麦 三河野の 麦 三河野の 麦

碑除には、「本校六十周年記念式典に際し、初代校長玉川斌郎先生夫人の厚志を以つて之を建つ。昭和五十三年十一月五日。六十周年実行委員会」と書かれています。製作は、豊橋市下地町のKK産経ハウジングで、実費同然で引受けていただいています。

母校を訪れた時にはささやかではございますが、意のあるところをお含み下さいましてご覧下さいませ。

記念式典にことよせて

俳人太田鴻村

木犀の花のおりが漂いだしたかと思うと、あちこちの庭の隅々にガッシリとした円い葉の中から、累々と蕾のかたまりを見せた花茎が、たくましく伸びて、黄いろい花弁を二枚三枚と、ひやかな庭の空気を、まるで切り裂いたかと思われれる位の、確かさでその存在を無視することのできないつわぶきの花の季節がやって来た。

国府高校の創立六〇周年の記念式にお招きを受けて、いそいそと参上したのは、一年前の、木犀の花が、そこはかとなくかおり、つわぶきの花が鮮明に咲きだした頃だったと思ひ出される。受付には長年の、渡辺さんや石黒さんの親しい顔々。渡された提げ袋の、づつしりとした重さ、私は、まるで別世界へ導かれたような錯覚をおぼえたが、田中先生に声をかけられ、ご案内を受けて、同窓会館の前庭に新しく建立された初代校長玉川不岐先生の句碑の前で、先生のカメラに入る。(この事、後で再記)

六十周年記念式典に

加藤文英

全校を挙げて出動した事。石田先生の巻脚絆、戦斗帽姿は、まことにりりしいもの。引率教員の腕章について、その交付の員数が少くて不自由をした時など、先生自ら係員に単刀直入、呉れるか呉れないかの鋭い打込みで貰い受けたののに、舌を巻いたことがある。敗戦後先生に従ひ、田原の遺家族を弔問、江比間の盛義海水亭に泊った時の(潮騒にからだを置けば漁火すずし)の拙句が去る六月初め、同所児童公園に喜寿の句碑となったことを、ご報告して、先生の知遇を謝するものです。

前掲、初代校長玉川先生の句碑の前で、田中先生のカメラに入ったことに就いて一言。旧同僚の丸山先生が田中先生とご一緒にご来訪。六〇周年に際し、水戸の玉川先生の未亡人刀自から祝の寄金があったので、記念に句碑を建てたいから句を選び揮毫して呉れと、同窓会誌「光風」所載の三百余句のコピーを示された。先生は国府・御油の俳句同好者でつくった土曜会の一員。私は昭和二年、玉川先生のご推薦で岡崎高女に就任した事があるので欣然とお受けした。句は昭和四年の作で、(三河野の麦日にのびて冬晴る)この句は旧校舍二階の校長室から眺めた冬の闊然とした田園風景が生々と描かれている。(高女・高校教諭)

六十周年記念式典に

加藤文英

六十周年、一口に六十年と云つても、考えてみると実に永い年月です。例えば人間この世に生れて以来幾多の喜怒哀楽を経て、やがて額に皺を刻み、しみじみと過去を追憶しそして有終の美を飾る、ほんとに祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響ありで、人の生涯は思うだに長く短かく、うた、感無量のものであります。然るに国府高校は生れて六十年、いよいよその輝きを増し、更に将来今まで以上幾多の英才を輩出し、県下に、いや日本に国府高校ありと誇り得る如き記念式典だったと思ふのであります。六十周年記念式典に於て、来賓諸氏の温顔、職員各位の喜び、卒業生の演奏会、生徒と共に全校挙げての祝賀ムードは、まさに将来に向つての大飛躍を約束するかの如き感を抱いたのであります。

小生この式典に参列するの栄を感謝すると共に、それ以前田中康弘先生から旧豊川高校の歴史に関し色々御質問を受け、出来るだけ資料を提出し御協力致しました。小生は感じました。時代の移り変りにより、旧豊川高校は国府高校に合併されました。一回二回と飛躍の機を失し、やがて



人々の口から忘れられんとする豊川高校を、その歴史を、関係者の誰もがまとめ得ないまでに極めて詳細に記念誌に残された事は、小生の此の上ない喜びであります。ですから小生もまた、記憶違いもありましたが、此の機会を失っては再びその全貌を知る能わずと思ひ、極力協力したのであります。

此の度、同窓会報を発刊されるにあたりまして、思いがけなくも六十周年に参列しての感想をとの御依頼を受けました。小生等の顔を出すべきではないと存じ御辞退致しましたが、たつととの御言葉で厚顔を顧みず所感を述べさせて頂きました。再度に亘る御厚情の程を深謝して筆を擱きます。(旧豊川市立高校教諭)

記念式典に出席して

徳島年久

昭和五十三年十一月五日は国府高校の遷暦を祝した日。なんと素晴らしい佳き一日であったことか。昨日の事のように思ひ出されます。この六十年を大きな節目として、国府校と有縁の方々には母校の益々の発展を期待するものであります。

式典の日、み足の御不自由な石田雄一先生の介添をさせて頂き、壇上に上りました時

の感激は一生忘れる事が出来ません。私事に亘り失礼ですが、昭和二十四年四月新制高等学校区制による、教員編成替の際、小生は豊川工業高校から、豊川中部中学校教頭に転出が内定いたしておりました。三月三十日付新聞発表で赴任校が国府高校となつていました。暫くは目を疑ひ、信じられませんでした。国府高校へ出向いていきました四月の一日、石田先生が、当時の校長片山三郎先生に所用で来校されていました。石田先生にお目にかゝるや先生は、開口一番、「徳島君、国府なら不満はないでしょう。頑張つて下さいね」と、私は一瞬電気に打たれたやうで、何とお答え申したか記憶にありません。

恩師石田先生(先生は豊橋中学—現時習館高校—時代に英語を教えて下さった恩師です。当時私は英語の出来ない劣等生でした。)の御尽力により、急遽勤務先の変更であつた事に気付きました。爾来十四年間国府高校と御縁が結ばれ、不肖徳島の教員生活最良の年月を国府で過ごすことが出来ました。恩師石田先生と共に表彰の為に、同一壇上に立つた私の思いは、私だけが噛みしめた思いでした。私は現在で教員生活四十四年になります。この間国府高校で十四年御世話になりました。私の勤めました多くの職

場の中で一番永く働かせていただきましたのが国府校で御座居ます。この記録を破る事は出来ません。現在の職場は今日の日でやつと十年を経ましたが、愛知県へ帰る日も近いでしょう。十四年の記録は更新される事はないでしょう。

国府校での私の教壇生活は、一匹の鰐と言う動物の一生涯のように思われます。六十周年記念日にお招き戴いたあの日「鰐」「鰐」と皆様からお声、この「イタチ」と言う呼び名は、私を蘇えらせるよ様な激励の御言葉でありました。国府高校在職年月を主軸として「鰐行状記」と名付けて、自叙伝でも書きたい思いで一杯です。而し残念ながら現在は極めて多忙な日々を送つていますが、日ならずして暇な年月(退職愛知へ帰省・隠栖の日)は出来ましょう。幸い健康には恵れています。たいへん健康には恵れています。幸い健康には恵れています。たいへん健康には恵れています。

最後に現在当別市に、本年七月中国から引揚げ、日本で永住を決めた、日本語を知らない方々、年令は十才から四十五才までの男女十余の集りに、週三回来年三月まで、日本語講座(登別市主催)の

講師を勤めています。身振り、足ぶり時には床の上を這つたり、片言の中国語を操り奮闘しています。先日NHKで授業風景がテレビで放送されましたが、冷汗ものでした。幸い全国放送でなく皆様のお目にとまらず、安堵しております。依頼されると、否と言えない小生の悪い癖、身から出た錆と思ひ、且又戦後の始末は何としてもなさねばならないと思う、ちよつびりとした正義感が老人徳島を鞭うつています。

以上近況を加筆させていた

だき、北辺の地から、御同窓の皆様の弥栄を祈念いたす次第です。(現北海道登別大谷高等学校校長)

同窓生感想

国女1 伊藤 ふじ  
盛大な事業を実施していただき感謝しています。新役員を今後も支援して行きたいと思ひます。

国女6 平 田 とみ  
国女同窓生として最後の御奉仕ができて満足です。今後

も微弱ですが応援をしたいと思ひます。

国女7 正 田 愛  
子供の恩師の先生方におあ

いできなつかしく思いました。職員・生徒の皆様方の協力に感謝致します。

前副会長

国女24 桜 井 通子

体育館一ぱいにひろがる校歌の斉唱、忙しいスケジュールの間をさいて母校のためにかけつけて下さいました浜氏のオーボエ、記念祝宴での恩師のお言葉、みんなで歌つた各年代の校歌・応援歌……すべてすばらしいものばかりでした。式典が盛大に挙行できたのも、会員の皆様の暖かい支援のたまものとお礼申し上げます。

尚、これを機に、副会長をひかせていただく事になりました。在任中、何の働きもな

く月日が過ぎた事をおわび申し上げます。

高 4 花 岡 美樹

資料展示会場で感無量になられた方がいますから、今後ともこの企画を忘れないで下さい。

高 5 守 田 利弘  
出席者の男子の同窓生がや

り少なくて残念でした。しかし多くの恩師の先生とあうことができて楽しい思いをしました。

60周年記念事業会計報告

国府高等学校創立60周年記念事業に際しては、関係者にお示ししたように事業計画に必要なる募金目標額を、一、五〇〇万円とし、予算配分は記念式典二〇〇万円、記念誌(校誌)編纂五九〇万円、名簿発行三〇〇万円、記念遊園二〇〇万円等の配分を定め、募金状況の推移により、通算予算を超過すること、このうち記念誌、名簿発行については往々より頒分価格を予約申込金として前納していただき、他の事業計画とは切離した独立採算制をとること。

予算総額一、五〇〇万円は同窓会が一、〇〇〇万円、PTAが五〇〇万円の割合でこれを分担して募金を行うことにし、募金方法としては同窓生一口、二、〇〇〇円、PTA一口、一、〇〇〇円、一般寄付一口、五、〇〇〇円(各々一口以上とする。募金期間は同窓会発行の五二年一月より五三年四月末までとする。以上のような大層で募金をお願いしたわけですが、最終的には下記の収入内訳によるように総額で約二、一五九万円と当初予算の一、五〇〇万円を大巾に上回るご協力をいただくことができました。これはひとえに会員各位の深いご理解とご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。なお、各卒業年度でクラス等のおとりまめを願います。財政専門委員の方々のご熱心なお力添えにたいへん感謝いたします。ご協力をいただいた方々のご芳名につきましてはお名前を掲載させて頂きましたのでご了承をお願いいたします。

一方、記念事業実施年度に至り、各事業に於いても、内容の充実、催物の追加等があり、五三年九月末の段階で補正予算を検討する際に追加要求として、式典三〇〇万円、遊園二二万円、経費二七万円、記念誌六六万円、名簿発行一三〇万円、合計九三六万円という補正要求が出されました。当初予算一、五〇〇万円と併せると二、四三六万円となり、募金金額に比して約三〇〇万円の不足を来すことになりました。不足額については、記念式典実施までの期間も残り少なく、募金活動にも時間的な余裕がないという事情もあり、こゝに急拠、甲子園後援会の財産より三〇〇万円までの拠出をお願いすることになりました。同後援会より、格別のご配慮により、学校の環境整備(造園)に使用するという条件で拠出をいただいております。

会計の残金につきましては下記の報告のよう

今後この本

の維持管理に

に当てること

としましては

独立採算制をと



収入の部

科目	金額	内 訳
寄付金等	18,573,870 <sup>円</sup>	別記のとおり
名簿広告	2,750,000	〃
預金利子	149,930	東海銀行、豊川信用金庫、郵便局の利子
諸収入	118,000	山本豊川市長始め13件
計	21,591,800	

支出の部

科目	金額	内 訳
運営費	2,931,617 <sup>円</sup>	
印刷費	904,130	払込通知書・申込書・趣意書・封筒・ハガキ等印刷
消耗品費	126,734	実行委員長印・茶封筒・角封筒・帳簿用紙鉛筆諸用品
食糧費	544,622	会議・打合せ・来賓 サンドイッチ・牛乳 (昼食・夕食用)
通信費	1,029,495	趣意書発送 料金不足返かん料 4430通 切手・ハガキ 記念誌名簿発送
賃借料	6,000	貸鉢
人夫賃	266,856	寄付金等の照合・アルバイト
旅費	53,780	寄付募金・調査等旅費
事業費	5,836,318	
式典	4,652,275	祝宴・会場設営・絵ハガキ・写真・記念品・印刷物
受付接待	223,494	湯のみ・スリッパ・灰皿
展示	216,609	展示用写真・パネル・展示用消耗品
記念音楽会	592,750	記念音楽会・プログラム・録音料

放送照明	151,190	式典会場マイク・アンプ借用・接続コード
造園	1,369,020	樹木掘取・植込み・樹木代・写真
記念誌	6,412,120	印刷・送料・編集
名簿	4,659,120	印刷・送料 記念品ブロンズ・赤石・燈ろう台石プログラムのデザイン料
雑費	69,000	特活へ返戻
計	21,277,195	

収入金額 21,591,800<sup>円</sup>  
 支出金額 21,277,195<sup>円</sup>  
 差引金額 314,605<sup>円</sup> (樹木維持管理)

収入状況内訳

	寄付金 1口 2,000 <sup>円</sup>	記念誌 1,600+200	名簿 1,500+200 <sup>円</sup>	計
同窓生および職員	4,408,625 <sup>円</sup>	839冊	1,354冊	12,585,150 <sup>円</sup>
在校生	1,614 <sup>円</sup>	1,599冊	1冊1の9生徒	4,393,720 <sup>円</sup>
1口 1,000 <sup>円</sup>	1,833,820 <sup>円</sup>	2,558,400 <sup>円</sup>	1,500 <sup>円</sup>	
一般寄付	37件 1,595,000 <sup>円</sup>			1,595,000 <sup>円</sup>
計	12,246,070 <sup>円</sup>	4,050,300 <sup>冊</sup>	2,277,500 <sup>冊</sup>	18,573,870 <sup>円</sup>
名簿広告			134件 2,750,000 <sup>円</sup>	2,750,000 <sup>円</sup>
祝儀	13件 118,000 <sup>円</sup>			118,000 <sup>円</sup>
預金利子	149,930 <sup>円</sup>			149,930 <sup>円</sup>
合計	12,514,000 <sup>円</sup>	4,050,300 <sup>冊</sup>	5,027,500 <sup>冊</sup>	21,591,800 <sup>円</sup>

創立60年誌編集  
刊行を振りかえって

会報二二号でお知らせした段階での校誌の骨組みは、①写真、②回顧、③沿革史、④付表の四部門構成の見込みでしたが、約一年の編集作業の過程で次のような形に落着きました。

①の写真部門は企画当初から最重点部門として五十二年度後半から、主として母校の視察覚部の先生方に担当していただき、校内保管のアルバム写真、雑誌光風、光風新聞、国府高新聞、雑草新聞、同窓生、学校関係の皆様から提供の貴重な資料千余点から三〇〇余枚を選び出し、組み立てた。重要年二頁、普通年一頁を割り振り、一〇八頁にまとめ、第一篇とすることができた。

②の回顧部門は予告では、恩師、父兄、学校関係者、同窓生にお願いする予定であったが話合いの結果、恩師、同窓生に決った。国女及び国高初期までの恩師については、丸山千久子先生が可能な限り電話にて趣旨を説明し、内諾を得、また国高時代は、川島、中嶋賢、持田の諸先生に助言をいただきお願いした。特別に委員で選定した題でお願い

した場合もある。学校長で御生存の方にはすべて思い出をおねがいがしたが、片山・山本・浜島・小田の四先生からの玉稿のみで、石田、中村、寺島の諸先生からはいただくことができなかった。

同窓生の思い出原稿は、依頼が一番むづかしいところであった。幸い国女時代はクラス数も少なくほとんどの同窓生を知り尽くして見える丸山先生が委員であったことから候補者探し、仮題選定までしていただき、比較的はかどった。実科・市立高は、実科以来を知悉しておられる加藤文英先生におまかせした。

最も選出に手間どったのが国高である。課程が多様で組数も多いため、学年から一名選出が至難なわざであった。三年時の先生方に候補者の推薦をお願いし、職員に同窓生のいる回は助言をいただき、生徒会・部などで活躍された方を選び、打診する手続きを踏み、全回生に目途がついたのは、八月も終りに近い頃であった。中心になっていたいたのは、竹本先生でした。原稿枚数は若干の中を以ってお渡したこともあり、長短が

生じたが、かえってバラライティに富んだ内容になったと思う。頁数は予想以上に原稿が集まった結果、目次を含めて一四〇頁を超える量となり、校誌に重みを加えることとなった。

③の沿革史部門は、初め「母校旧本館として継承して来た宝飯中学校校舎創建の頃より」としてあったが、宝飯中学校が内容豊富であったので写真篇に若干記載したのみで割愛せざるを得なかった。

こうした事情もあり、第三篇は「沿革小史篇」とし、第一章を、宝飯高女、国府高女に充て、ほぼ編年形式で、校史中のトピックスの事項を平均的に取り上げ、五三項目ほどで記述した。年度毎に発行の校友会誌「光風」、学校日誌等が揃っていたこともあり、書く内容に事欠くところは少なかった。

第二章は、豊川家政女校、豊川市立高校とした。本校のもう一つの源となった学校であったが、引継書類が、卒業生名簿、提出書類控え程度で、具体的資料に乏しく学校変遷史程度にしか書けなかった。最終段階で、校友会誌「芳友」の創刊号と最終号を入手、引用に加えることができたのは望外のことであった。

第三章国府高女は、発足時からの職員、又同窓生も多いので、関係の方々を引きつけ



ていただく予定であった。ところが、三〇年前のことを系統的に書くことは無理で、話しながらと云う方が多かったため聞取りを中心にして盛り込む方法をとった。三〇余年間を草創期、発展期、安定期に三区区分をし、国女と同様、特筆項目方式をとった。光風新聞、国府高新聞、学校日誌、雑綴などを基礎史料としたが、年毎にまとめた冊子が作られていないために、項目選定に苦労させられた。また、既報のように国府高新聞の前半五〇号前後までを学校が所蔵していなかったことで、推測を交えて書いた所を多々残してしまうことになった。(応援歌の成立過程など)その結果三〇年までは一年当り二項目割りとして得たが、三〇年以後から四〇年までは、特筆すべき項目が少なく、(新聞、学校日誌ともなし)又締切日時切迫のため、大雑把なものとなってしまった。フアヤースチーム中止、生徒会役員選出方法の改変、第二応援歌の作成などはのせるべきであった。四〇年代以後は、その時、その場におられた方々が在職されているので、できる限りお願いした。特に部活動で県大会をこえる大会に出場した地質(合川)、庭球(平田)、野球(藤田)、陸上(安食)の各部は、部顧問の先生(前記(一)内)に書いていた

いた。部活動紹介的になってくるが、資料として臨場感あるものとなったと思われる。しかし、バレー部、演劇部は部顧問転出のためをせることができなかった。第四篇の現状篇は、はじめ全く予定していなかったが、編集会議で沿革小史では書き込めない学校の現状を記録する方策を模索するなかで生まれた構想である。校務分掌毎に採りあげやすいテーマを核として、分析、紹介する方式を取っている、河内教頭の総論に加えて七部門一〇篇は、それぞれ特色をもつ内容であるが、とりわけ教務部の「戦後における教育課程の変遷」は、指導要領内で本校で実施した教育課程を、校内の動きを盛り込んで書きあげた力篇である。枚数超過のため一部を削除してある。付表は編集委員の分担で、創立以来の校史年表、PTA会長、同窓会長、現職員、旧職員の各一覧表と、回生ことの一、二、三年の担任表が加えてある。この外に生徒会役員一覧、部活躍表の意見もあったが、調査不十分と頁数の問題が生じたので省略した。集まった原稿は国語科の先生が誤字・脱字を訂正し、編集会議で割り付け、写真の組み込みを行ない、九月中旬に第一次原稿をわたし、残りの主たる原稿も九月下旬にわた

すことができた。その後十月中旬迄に、写植独得の荒打ちゲラ校正に手間どり、結局二校で終らざるを得なかった。頁数は予定の二八〇頁を大中に上まわる四〇〇頁を超える大部なものとなった。印刷冊数は、予約・贈呈分等を含め、三千冊であった。式典前日の夕方に五〇〇冊がやっと製本できるきわどい状況であった。なお名称は最終的に「国府高校創立60年誌」と決った。(文責 田中)

**名簿の編集を終って**  
多数の会員各位の御協力があったればこそ作り上げるのが出来たことを感謝しています。前回落ちていた補修科のみの修業生、国女四年修了者、国高2年1年修了者、併中卒業生について御指摘がありましたので、これらの方々の御名前も掲載致しました。なお、連絡がとれず不明の方も数多くありますことを残念に思います。また、今回より郵便番号、電話番号も掲載しましたので、やや版を大きくしたにもかかわらず活字が小さくなって、御年配の方々に御迷惑をおかけしている点申し訳なく御詫び致します。次回にはこれらの欠点を修正して、より立派なものが出来まことを期待致します。(文責 白井)

母校だより

職員移動状況

- 昭和53年度  
**転出**  
 嶋崎 孝先生 (英語)  
 一色 高校へ  
 美崎正義先生 (物理)  
 鳳来寺高校へ  
 三好寿美先生 (国語)  
 渥美農業高校へ  
 西尾得二郎先生 (英語)  
 岡崎北高校へ  
 藤原俊雄事務官  
 蒲郡高校へ  
**退職**  
 柴田守雄先生 (商業)  
**転入**  
 辻村一仁先生 (国語)  
 岡崎北高校より  
 菅谷健一先生 (英語)  
 愛教大付属高校より  
 滝崎清三先生 (商業)  
 蒲郡高校より  
 田中 俊事務官  
 岡崎盲学校より  
**新任**  
 影山秀子先生 (英語)  
 昭和54年度  
**転出**  
 合川 功先生 (地学)  
 愛知県教育センターへ  
 畔柳正弘先生 (英語)  
 岡崎高校へ  
 吉見絃一先生 (国語)

幸田高校へ

退職

- 松原光彦事務官  
 千種高校へ  
 平岩 鈞校長 (英語)  
 内藤喜久夫先生 (英語)  
 山口美恵先生 (化学)  
**転入**  
 竹内千司校長  
 豊橋南高校より  
 星野昌彦先生 (国語)  
 蒲郡高校より  
 庄子士郎先生 (地学)  
 愛知県教育センターより  
 鈴木 明先生 (英語)  
 豊橋南高校より  
 柴田 宏先生 (社会)  
 豊橋商業高校より  
 小黒君忠先生 (英語)  
 鳳来寺高校より  
 森田 豊先生 (化学)  
 新城東高校より  
 小久保伸也事務官  
 岡崎工業高校より

部活動

- ◆テニス部(東海大会以上)  
 昭和五十三年度  
 ○東海大会  
 鴨下・荻野組  
 ベスト4へ進出  
 雨天中止  
 ○インターハイ  
 鴨下・荻野組  
 五回戦進出、ベスト16

- 昭和五十四年度  
 ○東海大会  
 小林・岡組 二回戦  
 ○インターハイ  
 小林・岡組 二回戦

- ◆陸上部(東海大会以上)  
 昭和五十三年度  
 ○東海地区予選会  
 男子やり投 佐野良明  
 110mジュニアハードル 久保木伸一  
 女子四〇〇m 鈴木由紀子  
 二〇〇m 石黒京子  
 ○インターハイ  
 やり投 佐野良明  
 110mJB 久保木伸一 準落  
 400m 鈴木由紀子  
 ○国体秋季大会  
 110mハードル 久保木伸一 五位  
 昭和五十四年度  
 ○東海地区予選会  
 110mジュニアハードル 中森康弘  
 本島 稔 準決勝  
 ○全国高等学校混成競技大会  
 本島 稔 第四位  
 三五一四点  
 ○ジュニアオリンピック大会  
 400m 鈴木由紀子 第五位





S53年度 就職決定状況

( )内普通科  
54.4.14現在

Table with columns: 事業所名, 男, 女, 事業所名, 男, 女, 事業所名, 男, 女. Lists various companies and their employee counts.

S53年度 進学決定状況

54.4.14現在

Table with columns: 大学名, 受験者数, 合格者数, 大学名, 受験者数, 合格者数, 大学名, 受験者数, 合格者数. Lists universities and their student statistics.

1978年度版 同窓会名簿追加

(欠落をお詫びします)

Table listing members with columns: ページ, 卒業回数・組, 氏名 (旧姓), 住, 所, 電話, その他. Includes names like 山本弘子 and 天野幸子.

1978年度版 同窓会名簿訂正

(ご連絡いただいた方のみ)

Table listing corrections with columns: ページ, 卒業回数・組, 氏名 (旧姓), 住, 所, 電話, その他. Includes names like 森智恵子 and 中島石達子.



60周年記念事業寄付者一覽

同窓生の部

国府高女

(○印は二万円以上の寄付者)

- 一回 ○南こぎく、浜島君子  
市川静枝、○伊藤ふじ、寺部  
ふさき、大林志づ、山口むら枝  
山本きく、白井ちよ、山口き  
ぬ、井上信子、成田らい、内  
藤トモエ、三浦よしゑ、○片  
岡喜代 二回 ○荒巻順子  
大林友子、○竹内やゑ、竹尾  
千代子、田口たか、永井よし  
千代子、林はな、福田万里、山口  
かつ子、山口ひで 三回 秋  
山玉枝、井川千枝、石川しき  
市川たつ、今泉糸子、岩瀬く  
枝、大井みさを、岡田とし子  
太田ゆき、神谷すず、小林た  
ま、小村サエ、榎原志満、鈴  
木栄子、鈴木尚子、鈴木りん、  
田中かず、戸知しげ、戸知定  
子、土井ヨリ子、遠山ツルカ  
外山喜さ、○内藤よし乃、中  
川久子、花見小はき、古橋み  
つ、二村登喜子、藤田ふさ、松  
間瀬つね、○丸山千久子、松  
井きく、村瀬さゝ、森はな、  
山野井千代子 四回 大杉み  
ほ、伊藤いさを、伊藤さい、  
芳賀綾子、伊藤とみ、神藤綾  
子、藤波敏子、山口好子、三  
浦津奈子、磯貝さだ、清水ヒ  
ツ、大井きよ、林と世、山口  
つや、森あさ子、杉田あさ、  
小島貞子、内藤かきつ、小林  
敏、白井よし乃、清水きみ、  
石川てふ、鈴木ふみ、吉川和  
横井ユキ、中島精、田中利枝  
小林寿美枝、彦坂あさ、○近  
藤時代、片岡とき、牧山吉、  
坂ひさ江、近藤ふさ、  
福井すえ、木藤ヤス、高柳富  
よし、新屋代志江、戸田澤子  
牧野清子、麻野間とし、水藤  
つかね、中川芳子、林志げ、  
熊沢信子、山本さわ、水野吉  
ぬ、小早川紀乃、八回 古川  
千代、太田あけ、小野田弥寿  
○伊藤さだ、川村ふみ、飯田  
千代、大久保しづ、後藤ゆき  
○鈴木可代、小山さか、芳賀  
よその、久米つや、岩本都、  
山口敏子、今村ちよ、田中志  
津子、岡本ふさ、太田ひろ、  
関口菊枝、大井ふさ、鈴木紀  
久代、榎原恵美子、新良とみ  
子、仲田キヨノ、三浦かなめ  
山本はな、河合一子、小原さ  
わ、大島はる、中村キミ、新  
美清子、河西とし、高木みつ  
を、塩田とよ、高橋みち、○  
鈴木満子、大池千代子、豊田  
滋子、本多みさを、堀内かず  
林、つる、松平とみゑ、村  
上花代、高木みゆき、鈴木和  
子、永井きよ 九回 鈴木ゆ  
り子、植田種子、彦坂佐智子  
都築マサ、池谷寿子、大林ま  
さみ、正田春子、大村ふく、  
高津河内、柴田マサ、加藤み  
よ、加藤ひで、○片岡美代、  
竹本あい子、堀内とく、和田  
つね、島山和子、宮川なを、  
深井復枝、石黒さち、青木は  
な江、戸知とみ、鈴木緑、鈴  
木葛枝、加藤美恵子、大草礼  
伊藤ふさ江、宇佐美房子、金  
馬きぬ、永田勝代、高橋木  
西口かち子、堀内芳子、浅野  
式枝、山内ハル子、太田梅子  
山本幸子、小川和子、細井あ  
や、高木イコヨ、石原信子、  
白井すま、太田しげ、山本茂  
子、松山みつゑ、鎌田とよ、  
是久清江、○竹花小枝子、彦
- 坂ひさ江、近藤ふさ、  
牧原文子、小栗芳、横田あき、  
堀内とみ江、鈴木ひろ子、岡  
田むつみ、小野まき江、浜名  
志津子、○河合田鶴子、○加  
藤野子、渡辺久子、梅村ひで、  
中田タケ、横田きくゑ、本多  
節子、尾藤すて、平尾たき子、  
鈴木あさ、森恵恵子、山田ふ  
み、竹尾とみゑ、今泉重、長  
尾アイ、鈴木利子、○小林き  
み子、白井郁代、島田幸子、  
塩野きよ、山本辻子、大木し  
つゑ、奥美恵子、鈴木好、大  
野よしの、渡辺八千代、前川  
綾子、井沢まさ、渥美はる枝、  
河野ゆき子、高柳すゑ、水野  
やす、村松迪子、小川キミ江、  
夏目信、○鈴木好子、水谷き  
くゑ、十一回 戸田やゑ、畑  
田ため、星野ゆり、近藤千代  
子、榎木ゆき、大木あきゑ、  
大木静江、川村まよ子、小川  
はる子、倉橋まき子、小野素  
はる子、深野たか、神村トチエ、  
河合善子、市川八千代、尾藤  
さだ、高田恒子、小田とう、  
近藤八重子、荻野雪江、大須  
賀米子、榎本春子、角谷秋、  
牧野むつ江、鈴木あさ、花井  
り子、伊与田よし、高橋はつゑ、  
鈴木しきゑ、山口雪子、岩本  
みつ、波田野よし子、小出良  
子、村上はな、神藤智恵子、  
時田とみ、牧原秋子、平野  
高子、高木佳枝、葉山しづ子、  
伴代英、森流まさ 十二回  
○近藤幸子、出春子、沢部ち  
すゑ、加藤静代、岡田寿美子、  
坂本豊、今泉千枝、井沢しづ  
江、井上みさを、清水栄、今  
川住江、小田みゆき、関一重、  
金子ひさゑ、河合とく江、居  
沢みすら、坂部久代、朝倉い  
まさ子、浅野淑子、住吉子、  
佐藤喜代子、寺本幸野、小久  
保つや子、兼子孝子、岩瀬久  
磯貝小子、高木月代、杉山ふ  
さ、伊藤たか、田中登茂江、  
伊藤芳子、夏目あや、山村幸  
代、黒田くによ、石崎恒子、  
足立千代、若月光子、小川房  
子、羽田野百合、加藤よし子、  
藤田きよ子、山本とよ、川口  
高枝、小川英子、渡辺ふさ子  
鈴木ふみ江、三輪みゆき  
十六回 白井真智子、浅井た  
づ子、梅村清子、市川千鶴子、  
加藤美保子、竹内秀子、松  
光代、岩月雪子、石黒サダ子、  
長坂房子、酒井とも子、榎原  
ゆきゑ、戸知みつほ、松本芳  
野、鈴木照波、竹本つたゑ、  
渡辺清子、井上雅子、岩瀬春  
子、山本規美子、林貞、岡田  
道代子 十七回 市川当代、小原  
石原映子、榎本春枝、小原松  
子、小田幸子、小野茂子、荻  
野きよ、壁谷早苗、草深喜代  
枝、小林馨、小林文江、真田  
富江、塩谷さき、新堂和子、  
原はる、杉山やす子、鈴木花  
枝、竹内せつ子、谷口春野、  
竹内一子、豊田富江、島山た  
か、内藤美津子、鈴木しき、  
中山さち子、西川芳子、野村  
真佐子、藤田さち子、藤田初  
子、松井しづ子、森田栄、山  
本静子、宮本きみ、横井薫  
十八回 松井日出、伊与田ち  
よ、北川芳、稲垣田鶴子、塚  
中静代、山田端、吉見八重子、  
中村千穂、石川克子、小山静  
丹羽京子、佐藤チエ、国沢佐  
代、山口さつ、竹内愛子、中  
西いさを、井上みどり、本田  
信子、痴山房子、近藤とみ、  
永井千代、稲吉康子、成瀬千  
枝、中沢ハル、斎藤秋子、渡  
辺あや、山崎恵美子、寺島三  
代子、村上さと子、藤田喜代
- 武内みゑ、国沢文、都築  
まさ、高橋あい子、渡辺歌子、  
山脇きく江、西山郁子、鈴木  
キヨ、金子貞子、野々山とも  
江、棚橋富美子、長谷川文子、  
小林かよ、中田みさ、寺部み  
を子、鈴木一子、雨宮きよ、  
藤井つと、中西る、市川秀  
子、正井康江、山口せつ、渡  
辺益産 十三回 浅田寿子、  
鎌田静江、大竹三千代、藤田  
すま子、森田きよ、高津富佐  
子、谷口益子、谷山只子、松  
井小はる、奥田喜美子、長谷  
川さよ、佐野とよ、杉浦まさ  
近藤真、天野ふみゑ、早川静  
子、阿部よしゑ、漆田ひさ、  
水野あい、朝倉いく、中村久  
世、大岡乃木子、柿田加藤丸  
和、北川みさ子、高崎敏子、  
大林梅野、榎原鶴江、山口志  
子、江、河合きみ子、乗松百合  
子、十四回 佐々木葛枝、山  
田ひさ、榎原和美、松山桂子、  
渡辺芳子、川崎篤子、荻野孝  
子、大川二紀子、○金田三千  
子、大林登志江、笹之内幸子、  
伊東一枝、金子千寿子、竹内  
八重子、水藤さわ、小林はつ  
江、大谷ヒロ、高部三四、○  
安藤幸子、水谷と志、朝倉利  
子、大谷うた子、大場ゆき乃、  
下村きく、鈴木喜美、佐野レ  
イ子、○陶山すみ、武田とく、  
高田元子、○竹本きぬ、鈴木  
たむ、萩原友子、島田ちよ子、  
浅井しづ、鳥居マサ子、白井  
アヤ子、堀脇和代、田中つや  
子、水島与志子、定盤房子、  
○高和幸子、小野田茂、木村  
あや子、山口富士子、中野良  
子、山本智恵子、榎原芳子、  
黒早苗、山崎吉子、榎原芳子、  
山本智恵子、浦山美代、磯貝  
まさ子、浅野淑子、住吉子、  
江、岩本みち、宮野美恵子、  
佐々道子、十九回 粕谷和、  
秋元俊子、近藤君子、戸刈よ  
しゑ、岩本こと、杉本環、竹  
内千鶴子、板橋千永子、井上  
秀子、高平フサ、岡田康子、  
岡本清子、小田幸子、水藤時  
子、琴屋富子、松井かず子、  
小松善子、久保田寿子、加藤  
道子、牧原みち子、石黒すゑ  
丸山富子、中野ひで子、杉浦  
歌子、杉浦恵美子、鈴木一枝、  
鈴木邑江、鈴木茂子、中尾節  
子、柴田竹子、藤原とみ、三  
輪地まさ、石田米子、田窪治  
倉地まさ、石田米子、田窪治  
子、大林芳枝、原田三代子、  
藤山たけ、立松信子、加藤か  
ち子、玉置甲子、後藤マサ子、  
匹田泰重、細井サエ子、大須  
賀光子、鈴木愛子、鈴木貞子、  
近田澄子、鈴木久子、近藤芳  
子、鈴木芳子 二十回 田中  
房、小室民子、早川いさを、  
大津永子、青山十四子、戸沢  
芳子、藤井和枝、岩瀬葉子、  
原田宮子、中村智子、本田富  
美子、小林恵美子、尾崎幸子、  
浦川永久子、大須賀あみ、小  
野佑子、河合千鶴子、佐藤ふ  
さ、加藤とよ子、河辺悦子、  
木谷妙、日比美代、後藤照、鈴  
恵子、河北美代、松井照子、石  
川朝子、鈴木繁子、鈴木なが  
子、竹本みし、竹内みち江、  
川朝子、鈴木繁子、鈴木なが  
子、竹本みし、竹内みち江、  
堀場佐栄子、鈴木愛子、寺沢  
文字、石垣しず江、中尾しづ  
子、西山みち、浅田富美子、  
竹中文子、福井陽子、細井ト  
シ子、牧原礼都子、深田咲子、  
志、後藤美智子、山内まさ子、  
石川幸子、安東みち子、根本  
いく、洪川緑、山口芳子、大



林幸、木村英子 二一回 高橋三和代、佐原ふさの、井本美也子、草野武彦、山本洋子、鈴木キクエ、溝辺きん、藤山花子、千賀喜代子、山口トモ、井上和子、神志志賀、古布村千代子、佃愛子、柴田恵美子、杉浦とき、宮野喜久代、足立益枝、大羽美知子、足立みさ、高井正代、彦田とし子、大林和子、熊田政子、中谷久子、林田鶴子、中西智、朝倉たつゑ、多田公子、下須賀恵美子、高木文子、向坂のぶ子、藤井妙子、大江よし、宮城谷とし子、河合幸子、森さちよ、福井郁子、太田菊枝、辻久子 二二回 近藤君子、石田幸枝、松原則子、小笠原好子、柴田君代、稲石美代、清水久子、松上久子、木多清子、加藤久子、園部良子、鈴木郁代、小林エミ、小林民子、桜山佐恵子、生田志のぶ、竹田サク子、竹下純代、河合幸子、富田康映、飯代さよ子、○鈴木シゲ、曾根淑子、橋本キサ子、今井照子、伊藤幸子、大井よしゑ、鈴木かつゑ、福吉札代子、高柳和子、伊予田つゆ、鈴木佳子 二三回 福田典子、鈴木ミヤ子、佐竹登久子、中村久代、寺部久子、村田きぬ、竹内千枝、中島早百合、野本美保、大塚栄、小林和子、松本正子、寺部ため、神谷宏子、高橋はる枝、竹本ヤス子、彦坂谷子、鈴木和江、小林ユリ子、杉浦美代子、高橋ひろ、井沢弥生、白井逸子、山本せつ子、中川増代、斗永久子、平沼昭子、林節子、藤田式、鈴木迪子、原田淳子、加藤モリエ、岩原美志、飯田なみゑ、瀬川資子、小原清恵、佐野昭子、出口照江、白井マツ、小

林瑞子、木村静子、多々内美子、野々山孝子、伊藤恵美子、河合千代、森岡典江、松林利子、松井せつ、松下久枝、小島ちか子、波紀伊子、伊藤妙江、原田よし子、杉浦マツ子、若山みつゑ、柴田嘉子、渡会かず子、正田美那子 二四回 金沢実枝、加藤寿美子、村上敬子、丹羽嘉代子、市川つた、加藤鈴子、小林五百、宇野みつ江、榎原美智子、田中光枝、酒井悦子、丸山敏子、辻すみ、柴田孝子、彦坂範子、浅野さよ子、渡辺きよ、尾島幸子、真木登茂子、森下和子、平松知津子、佐々光代、○桜井通子、上野照子、松坂玲子、宇井多久美、林秀枝、尾島和子 二五回 山内恒子、石河光子、井戸田節子、佐藤八重、真瀬ゆき、石黒よね子、鈴木あさき、石黒よね子、大羽みち子、竹下貞子、中村房枝、森田恵美子、深津常子、鳥居たへ子、鈴木かつ、竹内照子、日比野美子、加藤幸子、沢口智恵子、近藤節子、山中すみ、本多美子、伊藤郁代、近藤いと、松井千代子、鈴木美子、根岸桂子、井上あさき、長田昭子、金沢都 二六回 杉江幸子、山本葉子、渡辺一江、興石美千代、村上千枝子、内藤ミキ、白井正子、鈴木喜美子、岡田貞子、加藤れい子、吉住富、白井和子、天野末子、荒井翠子、井上克子、伊予よし子、山本マチ、岩田美智子、加藤多賀、山田重子、○伏見たま子、近藤菊枝、加古睦、堀内八重子、水谷久子、木下房子、三村三恵子、市橋道子、夏目朋子、田中智世子、大谷ルリ子、渡辺敦子、森睦子

国府高校

藤田友子、青山和子、波多野初枝、川根美千枝、山口淑子 二七回 青木洋子、朝倉敬子、足立昌子、池田智子、石黒ハル、石黒裕子、伊藤和子、今泉正子、今泉礼子、黄木久子、太田中子、大林登美子、大山久代、岡村美和子、加藤あや子、加藤幾代、金沢公子、河合和子、河合正美、川口賢子、川崎田伊子、菊地牧子、北村美奈、工藤久子、桑山逸子、小林寿美、小山幸代、鈴木川美笑子、鈴木喜久子、鈴木初代、鈴木マチ子、鈴木道子、関山幸枝、高橋恒子、竹本はま、建部房子、田中悦子、田中ミヨ子、永井タエ子、中嶋野沢きみ子、波多野美津子、早川美津子、林佐和子、平松久子、平賀はつゑ、平松和子、藤田美代、牧野アサ子、松山せつ、村松徳子、森カツ子、山川登喜子、山口右近、山本寿々子、吉田あい子、若林りさ、渡辺トシ子、大林房子、浜野佳津子 一回 坂田久代、篠田つき、鈴木昭子、中野喜美子、兵藤貞子、加藤愛子、大林珠子、岩井田茂、武田さち子、伊藤美智、川口恵美子、木下和代、近田千里 二回 菅沼佳子、宮川とし、山口実、成田善四郎、伊藤夫佐子、山口和子、喜雄、山口孝子、伊藤等、丸地多野、山口孝子、永井芳子、天野依子、中村徹、光部たえ子、大須賀順子、伊藤靖子、○平野照二、○松尾早苗、渡辺治子 三回 小沢すみゑ、小野光二、松本せつ子、山口

理恵、泉節彦、鈴木和子、鈴木愛、福田俊子、上松映恵、白井治子、加藤晴美、中野智子、鈴木晶子、荒井早苗、佐野光有、伊藤敦子、○マサ一栄子、竹内京子、栗田昌之、中根政春、大竹達男、橋本武志、佐藤陽子、大林美波子、高木喜久夫、倉内和子、鳥居俊江、橋本昇、渡辺富士子、横田千枝香、石黒貞子、鈴木光保、渡辺謙、梶田阿き子、小林房子、太田良子、小木曾建、弓納持千春、近藤恒子、宮地秀子、笠原昌延、石川利雄、蔭山雅子、及部昌子、三浦和子、林洋子、内藤喜和夫、福井房子、尾崎きよ、三浦加津子、平松伝重、竹本重子、石黒正武、○鈴木雄三、清水薫子、松島啓子、新聞つや子、辻貞雄、荻野邦治、石田和子、太田信子、近藤昭、伊沢久枝、吉川正一、綿民房子、加藤トシ、太田述子、清水敏彰、尾崎みち、今泉喜久子、牛田フキ子、山田隆男、細井利之、加藤孝子、小林昌子、中村資朗、織田愈央、壁谷正子、高柳政子、○天野博臣、牛田きよ、細井力、小林茂代、山本十次、上島悟、堀田隆、高木幸雄、花岡美樹、○和久田強、前田巖、竹内一男、黒部せつ子、山本光子、大津逸子、関谷謙悟、藤井正雄、三輪留美子、鈴木幸三、中山功夫、野沢のぶ、曾田芳博、北川長和、神谷の孝子、花井和子、中村梅子、○中尾昭治、林三郎、柏本良三、鈴木晴雄、河原てる子、定盛栄一、神谷伸子、山本恭子、安田晋、原宏、藤村博、藤原久子、久保田安代、加藤秋男、神谷信、寺部良夫、神谷三喜子 五回 田中照美、加藤文子、岡田俊子、岩原茂子、守田利弘、桜井喜久美、藤井信子、小林成子、○長谷正行、石黒登綺代、齊藤千枝、丸山幸子、中川はつ子、大須賀満喜男、角谷洋子、安達健一、伊藤志津子、森下秀夫、小野英子、大竹和子、柴本一郎、藤井昌、飛田サチ子、石黒規吉、稲葉精一、伊藤登美子、中尾邦三、石田隆士、酒井敏、大須賀慶治、辻田てる子、杉山尚子、山口美智子、高橋澄雄、大石啓子、河野和子、小林ひで、森英二、中村邦之、中村悦雄、戸刈信喜、徳竹邦夫、永井克二、尾藤健郎、片山茂、清水敏、水藤洋也、鈴木重敏、高須信男、福山桂一、大森雪枝、黒田三代子、大久保洋子、大谷政郎、小笠原広、神谷光信、亀井修、足立邦利、中野代一、牧野喜八、宮城公正明、佐川恵美子、近藤道子、伊藤良一、杉浦修高、高橋慶子、福沢香、大田正浩、西田匡宏、小田桐正八、長田雪美、田中民枝、小林裕子、正田勝、伊藤智之、西沢映子、中尾裕幸、関谷菊江、丹下和子、加藤静子、岩城暢子、酒井保子、橋本尚子、山口昂伸、酒井佐和子、織田敦子、松井大場三郎、鳥山茂雄、笠原喜代子、浅井やぶ子、竹本和是、宮田君江、川口千代、近田周子、藤川美佐子、夏目正子、中川美世子、梅田知男、高橋好子、深谷清美、神藤都子、小原きぬ子、横山田鶴子、北川貞子、尾藤義子、青柳幸子、菅沼房江、杉本高子、山田和子、山下旦子、中川芳子、伊原きせ子、手嶋宏昌、雪竹恒男、福井雄一、大谷肇子、山脇肇、木下是良、壁谷かよ子 八回 伊東健二、伊藤文子、小田麻雄、杉浦昌子、高橋栄子、高木恵子、林英子、成田宏子、近藤松子、小林喜彦、土井義昭、大岡節子、野沢ちよ子、大石忠実、水上ナミ子、杉本孝吉、岡田宏子、寺脇博司、堀内和守、久保田祐司、石原琴江、小杉大育、近藤徳治、大谷博子、黒川正代、松本寿美代、○神谷時松、黒柳敏、松井トセ、木村あけみ、小久保孝敏、中村静子、榎原睦美、大久保恵仔、松井勇夫、倉橋恭子、田原翠山本洋子、渡辺孝江、加藤幸江、大林元、田中高子 九回 池田桂子、津越貞子、辻敏彦、山口栄次、田中幹規、長谷吉春、神谷陽子、小山直子、高津正樹、森田宏子、西口良二、山口高、今泉みや子、竹生愛子、山内睦文、河合文雄、榎原省三、山口弘、森島清司、大林典治、大林信義、井口トヨ子、丸山恒徳、神谷文子、村田誠、伊予田昌子、岩瀬英男、中村則子、正田洋子、村田正春、西村昭代、神谷英男、中村則子、定田洋子、田弘志、大林忠重、白井久子、丸山スズ、山田康郎、鈴木幸雄、岩田吉高、中尾和義 十回 中村傳政、平松政美、江、品川久枝、吉原智津恵、堀内俊和、松永尚子、稲葉京子、渋谷則子、田中伸枝、木村幹子、中西美和代、井上隆雄、伊佐次智子、高柳弘子、伊藤元、谷口登子、稲浦弘城、成瀬志津子、萩野高司、平尾和也、本多加代子、井上みなえ、小島克三、氏原愛子、飛田昌史、神谷章子、井上安正、大辻明子、富田さち、伊藤敏、伊藤伝子、原田浩子、山口式彦、渡辺慶伸、中安多



惠子、佐野利彦、山中秀人、野末博行、鈴木衛、中村幸子、高橋秀幸、榎原法夫、神谷清、山本貞子、稲垣和子、酒井重美、羽田野晴雄、清水達郎、義川光男、鈴木晶子、近井沢秀介、岡田忠彦、出原富子、藤本よし子、鈴木美千子、藤正子、中村由美子、小林淳原田修、菅谷美奈子、伊藤泰子、山本洋子、内藤旭、西口羽田野好子、緒方美恵子、三平洋子、大原信男、伊藤広代、大木紀久子、○竹内稔弘、氏江、鈴木瑞枝、伊藤田俊子、大木紀久子、白井秀昭、鳥居利原よし子、白井洋、大木あさ子、長坂千行、中山和子、浦川紀子、関根花子、湯浅謙、永井博、緒河清司、瀬崎長太郎、外山たみ子、道丹俊子、武山隆昭、鈴木勇吉、○杉浦尚代

十一回 伊藤弘行、林成野、芝原みつ子、安藤豁介、岩見拓子、真木真波、山田ひで子、雪下サエ子、荻野公彦、高柳俊一、内藤佑行、岩城清子、鋤柄君代、森下千夜子、近藤泰正、鈴木満子、重実史子、鈴木儀重、大須賀洋子、森島節子、鈴木外子、山本純子、鈴木紀久子、外山美代、榎原和子、小柳津典子、高橋千津子、大田豊子、清水睦子、林良樹、小林早苗、岩原良子、黒田桃代、山田晃子、近藤信子、清水登美、井沢幸子、栗田みゆき、木全茂子、中村節子、石崎忠一、春日美祐喜、中島妙、田中道子、前田重彦、荻町愛子、船井和子、岩瀬康男、齊藤朝子、山口京子、佐藤昌子、坂口幹子、近藤宏子、中野キヌ子、村尾千枝、伊東竹本博美、中尾多美子、小林里子、寺部洋子、青山弘子、脇田美知子、青山益代、竹本スミ代、加藤久代、松下恭育、山口周之、和田忠彦、宮野哲夫、辻岸子、中条たみえ、大光明隆成、棚橋昌子、齊藤晴子、山本博子、十二回 寺崎邦彦、山下ひろ子、井上愛典、

野末博行、鈴木衛、中村幸子、山本貞子、稲垣和子、酒井重義、川光男、鈴木晶子、近藤正子、中村由美子、小林淳子、山本洋子、内藤旭、西口祥子、鈴木七号、牧野紀晴、原田修、菅谷美奈子、伊藤泰子、山本洋子、内藤旭、西口祥子、鈴木七号、牧野紀晴、藤公子、小笠原秀明、広瀬喜美子、高橋弘行、星川和子、大木宏子、白井杉由、山口裕美、大場鈴代、山本典子、森河高美、杉山良枝、永井尚子、池田昭雄、安藤淑子、栗本婦美、石田磯子、羽田野圭子、佐藤信子、中野哲吉、近田庸子、丹羽晋、松本規子、山口武志、麻生智佳子、飯田紘三、中田厚、黄木啓一郎、竹沢とさ子、西川久代、小沢昭之、村田浩子、杉浦温代、山本博里子、井口静枝、柴田雅代、高木裕里子、十四回 石原義徳、小林和子、伊藤一枝、土屋浩子、水野遵一、内田征司、松本裕子、西田邦子、宇藤洋、榎谷幸治、白井裕子、関和昭、岸田昭、犬飼昭子、稲石博信、亀嶋恵美子、荻野紀子、大道まつ、浜口竜興、川島克之、川島範子、酒井敏子、○柘植勝人、白井美智子、毛利富大、中尾晋子、権田里乃、高柳美智子、宮野淑江、大林謙之助、藤田琢輔、寺田輝久、近藤貞俊、鈴木勝、二村良子

十五回 稲垣ます子、木下深、内田淳子、鈴木陽子、山本素子、伊藤順子、平沢洋子、丸山清史、伊藤之勇、白井道子、鈴木正康、鈴木花子、飛田貞子、山本博子、十二回 寺崎邦彦、山下ひろ子、井上愛典、

鈴木俊幸、大木秀子、山脇美、梅田喜子、小松美代子、浜口比呂子、中神得子、森藤征夫、吉見昌彦、伊藤昭道、白井克夫、伊藤政枝、鷺山茂雄、島田誠、波多野二郎、竹本昭子、小久保波多野、土屋文子、印宮正、松井賢子、辻慶雄

十六回 中山尚、伴洋子、加藤幸子、大竹明美、加納よし子、南多津子、両角知子、小田雅匡、齊藤善子、岩瀬啓子、古川梅子、岩本桂子、加藤篤女、加藤豊、竹本富夫、豊田暉依、後田サチ子、松下弘子、安東寛、近藤京子、渡辺恵津子、箕浦和子、柿田美智子、鈴木正紀、酒井純子、高岡順仁、○楊張勝己、丹羽道代、本田寧代、伊藤護、原正、笹本由紀子、金子百代、坂口久美子、内藤裕次、林貞男、荻野重電、中尾正栄、長谷悠子、十七回 渡辺崇夫、根石則子、山本澄江、藤井孝弘、細川成友子、大滝晃、竹内清人、白井友子、山口善敬、村瀬憲夫、柏谷博嗣、田島千恵子、伊藤政敏、林尚子、三浦とさ江、内藤真佐美、三浦紀子、浅岡喜美子、山口富子、今泉連、荻野豊子、灘部道代、小早川田英子、○浅田芳弘、安藤昌博、福安和子、今泉博人、近藤忠良、伊奈二郎、清水康弘、渡辺啓司、田中勝彦、十八回 塩野谷健児、井井光明、榎本喜世、池田真代、小林喜久代、尾崎まゆみ、小原光子、綱元和子、佐藤年昭、佐藤暎、鈴木啓子、山本芳孝、近藤克久、佐野嘉男、齊藤登喜美、平松洋介、岡田和彦、前田豊、服部豊、鈴木安江、石田博子、伊東佳子、原田邦夫、宮野元男、今川淳子、石黒和子、高木仁、鈴木美也子、曾田和利、白井サヨミ、岡田昌俊、渡辺清市、内田達良、竹本美保子、鈴木茂晴、十九回 大須賀仁、渡辺清子、原田照子、横田道子、中村幸枝、北川隆一、渡津雄二、渡辺正信、小久保清子、久保田喜重、鈴木源代、家治川通晴、宇佐美益澄、辻井ちず子、大桑久代、鈴木哲小川美恵子、鈴木光、服部佐夜子、鈴木光代、馬場民郎、鳥居絹子、中西恵美子、石川明女、岡田茂雄、伊藤洋一、鈴木美江、鈴木三子、瀧美忠久、海津孝、兵道孝子、松白井恵子、市川広子、松手義康、山口丹久、清水常次、原田敏子、可知哲治、金田清子、藤原利雄、古谷保、鈴木進、杉浦一人、加藤和英、田中敬信、二十回 三原敏成、仁枝久一、幸田正代、高橋進、松永史子、足立俊夫、山田卓司、橋本美知子、数井良光、坂上道子、佐野孝代、柳沢義雄、山崎俊子、太田英男、森本好一、鈴木茂和、山田文子、岩瀬多恵子、桐野久野、稲垣幸子、鈴木博子、桑野訓起、佐野賢子、内山一豊、飯山儀羽子、清水工、金子滋明、鎌内良高、村上公子、鈴木美代子、木下則子、飯島文久、二藤部文子、吉野三、安達文芳、杉山英子、吉村佐男、伊藤和子、竹内信子、浅井美代子、石黒佐知子、中川静代、鈴木加代子、中村健治、古川宣明、原和美、杉原有、竹内敏郎、田重雄、小林和利、秋山晋史、竹本丘平、浅井百合子、酒井規子、二一回 高田善則、片

山洋、内藤貴美子、中野小夜子、荒木博子、田中信、山口勉、中村俊晴、尾川温、鈴木道雄、佐藤峰子、竹田至、鈴木本吉男、倉橋一則、今泉保、河合史郎、竹内富子、大江尚美、山本直子、宮野育郎、丸山佳己、大場由起子、森谷いほ枝、佐野裕子、岩瀬正人、星川実紀子、榊井敏子、鈴木美知子、福井郁子、戸部均、小川きよみ、石川照子、雉野広子、大塚英隆、寺部重利、中尾三郎、沢部伸子、夏目ひろ子、山本哲司、小田哲夫、石田久利子、松下喜明、伊藤恒明、二二回 中村田鶴子、鈴木由子、笠木悦子、宇藤和子、石黒靖裕、池田良子、曾田明和、竹内久恵、山内美恵子、宮地尚子、渡辺明雄、市川保、長谷川淳、及部喜世子、磯貝かよ、中西恒子、渡辺明雄、中山久美子、松本洋子、豊嶋博幸、後藤博昭、中島博美、岩瀬康幸、小田泰正、清水尚生、伊豫謙治、丸山建司、犬塚仁司、寺部竜太郎、松井恵子、西川和美、二三回 小林和江、杉浦元子、星野伸也、中野豊之、権田莊一、祖父江賢代、榎本清美、高橋康夫、加藤恵子、飯島通代、中西正昭、日惠野朝代、辻岡弘美、青山百合子、大久保佳代子、富安つるみ、沢田勝徳、渡辺久美、山村肇、武田照子、大須賀良嘉、佐藤茂樹、中山耕一、近藤健司

二四回 鈴木八千代、牧野能富子、高柳春子、山本ゆかり、小川和子、牛山正晴、小川賢子、桑野主代子、宮野登美代、三浦愛子、山口武晴、藤森ちよ子、野村幸恵、磯田勝、浅井博太、橋本敦子、日惠野弘

生、松井明、辻村泰子、古川文子、宮地粧子、二五回 白井美由紀、熊谷公志、高城泰久、丸山保司、近藤和男、後藤浩子、加藤保子、山下基之、中神明美、忠内敏子、荻野茂祥、倉橋洋子、渡辺和至、原田真喜子、鈴木友子、田中利徳、横山賢、内藤深、矢吹千春、大須賀敏明、平松加久子、小林裕子、加藤昭夫、渡辺恵子、辻村とし子、河合裕一、中島妙、岩瀬富美雄、若山信子、松井陽子、中嶋妙子、内藤敦子、阿部年宏、河原本雅、寺部芳子、竹本文雄、長坂雅夫、若山富子、田中美恵子、杉浦幹夫、二六回 林幸一、鈴木常夫、近藤一彦、中沢淳子、山口真弘、磯谷寧、竹井典子、武田和久、藤井紀子、弘口直子、藤井康子、村上義弘、榎原平、増沢徹、中村孝美、加藤れい子、永井清子、山口明、太田富万、泉田欣作、辻克弘、辻洋子、大林且依、渡辺泰子、千葉章、野村恵美、荒井かおる、永井千鶴子、石川和弘、渡辺祥隆、沼田晃志、影山季子、本島明美、菅沼敬子、岩田増代、安藤恭子、河合明男、酒井泰夫、鈴木和子、渡辺てるよ、竹本元房、上野史朗、二七回 天野一真、荻野克彦、佐藤至、山口佳子、兵藤武司、野田元陽、小林宣夫、三保谷順、石黒三恵子、山本陽子、安藤祐司、土屋友子、森田悦子、三原美子、権田定芳、北代真良、榎原宏樹、山口和子、児玉貞敏、鈴木大和、和田優子、太田好輝、岩波竜哉、宮城谷文子、大林千恵子、杉山晴美、山口善久、鈴木真理子、白井利典、山口智子、鈴木俊夫、清水隆子、

森田千佳子、山口順子、林みどり、杉田茂、二八回 上松周一郎、田中毅、天野裕代、磯道雅和、石黒和博、中沢明美、寺部聖二、伊沢徹、筒井誠、櫻島知子、近藤幸洋、村巧、河川温美、渡辺年文、池田利樹、田辺ゆり、豊谷裕子、安藤雅章、牛田富美子、石原美代子、山本美佐子、多門寿、川口準、横田純子、志賀史直、大場典子、青木久子、好己、久世浩康、山口和朗、伊藤芳子、関谷成子、小林卓弥、前田房之、大竹和子、河内優子、近藤美智子、山科英三、花村弘子、中野徹、坂牧宏修、伊藤史朗、鈴木卓、藤木よし、河原邦江、渡辺深木由彦、石原美奈子、石黒知恵子、中山由宣、杉浦武子、二九回 坂田裕史、土屋京子、青山政嗣、梶田英伸、宇佐美富士子、細井京子、平松一恵、荻野靖夫、外山雅也、長島芳子、平松貴美子、大場広子、秦正樹、佐々木由美子、細川秀夫、神谷康司、池内重雄、中尾宣民、平岡紀恭、神谷雅治、岩瀬義典、山口美恵子、細井典子、辻岡雅弘、辻寛良、須田好、中野佳子、岩瀬好子、和田美智子、神谷雅治、中村弓子、神谷哲夫、中尾佳晴、久世萬、内藤郁代、伊藤英乃津由昌子、山田剛弘、村上恵子、井筒隆弘、安藤智啓、鈴木正彦、高田宜伸、清水由子、清水俊昭、天野喜代美、杉本佳亮、岩瀬守雄、細井京子、白井智里、越智成樹、鈴木章夫、内山博美、筒井洋子

その他30132333回の卒業生及び卒業予定者から一



六一四口の寄付金をいた  
だきました。

別科

一回 村田意世子、伴文、杉浦好子  
四回 田村具、鴨川ひろ子

豊川実科女

六回 大島その、坂田千代、小沢きよ美、三浦しき子、清水きみ、久米みつ美、平尾久子、早川操、宮道たよ子、近藤とみ子、前田芳子、鈴木ゆき、福田みゆき、足立とよ、松尾仁子  
八回 川島千鶴子、高木幸子、牧野真佐子  
九回 鈴木さかへ、深見かのゑ  
十回 中西しづ、十二回 長谷川昌子、佐藤よね、芳賀喜美子、村田文  
十八回 田口愛

豊川高女

一回 吉田圭子、清水澄子、大須賀まさ、二回 大信田ひろ、奥山富美、村田としえ、石黒弘子  
五回 清水さき江、近藤美雪、勝田ふさ子、山本たみ子  
六回 中根佳子、山口しげ、石河文枝、竹木操、竹木たず子、山口五十鈴、岩田やす子

豊川市高

一回 市川英子  
二回 白井一吉、三浦敏子、西川敏子、浅井満雄

国府併設中学

近藤きみ美、渡辺芳子、鶴飼マユミ

回数不明分

鳥居久、鈴木知左子、市川静江、竹木千代子、田中久恵、西木笑子、加藤立野、野呂美加、ニムラユミ、ホソイフミコ、フカダサキコ、ワタナベノブコ

一般の部

○豊川信用金庫、柴田製作所、日本電装、○夏山製作所、鈴木写真館、曾田書店、○蒲郡信用金庫、シンニチ工業、○東海銀行、○玉川あさ、ミノルタカメラ、山田忠高、丸美食堂、豊川染色、誠工発条、中部コンベアー、○ワタル印刷加工、○協栄製作所、羽田野、天野元一、愛豊鉄工、浜島商事、レストランヤマサ、豊川プリント、ノノヤマ洋服、竹本ヨシオ、古田敏雄、大塚栄、OSG、○高木メッキ、○新東工業、足立金属、鈴木光男、豊川建材、横越、ツシマ、大林印刷、○新東ブレイター、豊興工業、精文館、交通公社

職員の部

平岩鈞、河内義広、山本一雄、合川功、荒川登、安食久仁子、篠津公雄、市川千里、伊藤和彦、伊藤有司、伊丹正之、植田義之、太田正男、大滝孟、小沢甫、小沢美知子、藤気勝四郎、河合省吾、片桐千代子、河合四郎、畔柳正弘、小林隆満、近藤文雄、酒井義弘、坂部新蔵、柴田守雄、嶋崎孝、白井治人、白井みつる、鈴木馨子、鈴木正春、竹本守男、田中穂彦、田中康弘、都築一郎、富田主計、内藤喜久夫、中嶋賢、夏目了一、早川宣弘、平田邦夫、藤田良彦、細井光牧平孝夫、持田都也、横山敏

樹木等寄贈者

男、山内美郎、山口美恵、山田実作、山本勝信、山本菜穂子、吉見絃一、内田百重、小木曾親、岸岡美喜子、山田英子、鈴木重行、佐野セツ、金子政美、影山秀子  
(ゴジックは同窓生)

寄付者追加分

女六回 牧野すみえ  
十回 鈴木きよ子  
十二回 久野ひろ  
二四回 若見光子  
高二回 大田嘉承、六回 鈴木幹幸、大須賀啓子、鈴木信一郎  
十一回 長島基子  
十五回 武沢光恵  
十八回 山口泰子  
二七回 千葉万里子  
大須賀芳宏

御連絡

名古屋タイムズ、昭和54年11月20日(火)の第10面(キヤンパステ集)に全面にわたり「われらが母校」として母校に関する記事がのりましたが、同窓会・学校が関係したものではなく、名古屋タイムズ社の紙面を利用した産報通信社の行ったことですので、今後注意下さい。

総会の持ち方  
大中にかわる

五四年度の総会で「総会の持ち方を見直してみるべきではないか」の意見が出されたのをうけ、新執行部が中心となり専門委員会を設け、他校の事例等を参考に審議した結果、次のような素案がまとまりました。

日時は従来の四月第二日曜日では学期はじめて、準備等に無理があるので五月中旬の日曜日とする。

国府高校創立60年誌  
・同窓会名簿希望の方へ

60年誌は第一次申込み締切り後、好評で多数の希望者がありましたので三〇〇冊増冊し、現在若干冊残っています。また、同窓会名簿も少し残っていますので、次のようにつけています。

- ・国府高校創立60年誌 一冊 二二〇〇円
- ・同窓会名簿 送料 二〇〇円
- 一冊 一五〇〇円
- 送料 二〇〇円
- 二冊 三三〇〇円
- 送料 三〇〇円

申込方法  
豊川市国府町下坊入一〇一、愛知県立国府高等学校同窓会事務局宛に、直接か、現金封筒で申込み下さい。

窓会執行部とて数度の話し合いを行い左記のような原案となりました。

なお、いままで通り他の回数の方々に御出席いただくことは変更ありませんから、是非御参加をおねがい致します。

昭和55年度  
同窓会総会のお知らせ  
1.日時 昭和55年5月18日(日) 11時より  
1.場所 母校体育館または旧体育館  
1.会費 懇親会用として 2,000円

後記

「会報」二十三号をお届けします。母校創立六十周年記念特集号と銘うって鋭意編集したつもりであります。限られた紙面の都合で折角の原稿を割愛してしまい、残念でした。当日の厳粛にして豪華な式典や音楽会、更に祝賀会の模様を、特に参加出来なかった方々のために再現させるために多く労を尽したつもりであります。原稿をお寄せ下さった方々に厚く御礼申し上げます。

また同窓会役員交替、学校長の交替、総会の持ち方、大中など変更等掲載すべき内容が多く、紙面をスマートに出るなかつた事をお詫びします。